

ふるさと平郡の自然・歴史・文化・人々とのかかわりを通して、
子どもたちの生き方に活力を与えるPTA活動

柳井市立平郡東小学校PTA

1 学校地域の概要

PTA会長 松川 潤
 学校長 湊谷道彦
 児童数 5名
 家庭数 4世帯
 教職員数 4名
 所在地 〒 742-0041



平郡東小キャラクター「へいわん」



山口県柳井市平郡1834番地

TEL 0820-47-2020

FAX 0820-47-2020

E mail heigunhigashisyo@city-yanai.jp

本校は柳井市の南方、約20kmの瀬戸内海に浮かぶ周囲約30kmの東西に長い平郡島の東部に位置する学校である。開校は明治5年で、大島郡第1大区平郡島東村枝小学校と称し、浄光寺を仮校舎として開校した。平成の時代に入り児童数は10人以下で推移し、平成14年度に1名の卒業生を送り出してからは児童数がゼロとなり、休校となった。

平成24年度に1名の入学児童を迎え、9年ぶりに再開校し、その後転入児童もあり、平成25年度は3名、平成26年度は6名、今年度は5名の児童数である。平成26年度には11年ぶりに卒業式が行われた。

本校区は平郡東港周辺に開けた地域である。少子高齢化が進む地域で人口も減少しているが、地域を活性化したいと考えている住民もおり、特産のサツマイモを使った島興し活動に熱心である。地域の産業は農業、水産業が中心である。また、美しく水産資源が豊富な海や、野鳥のすみかになっている木々が茂る山があるなど自然環境に恵まれている。

地域住民は学校の教育活動に極めて協力的で、学校教育に寄せる理解や関心も高く、地域ぐるみで教育活動を展開していこうとする教育風土がある。保護者も地域と一体化した特色ある教育活動を理解し、協力的である。



2 P T A組織

| 役員名 | 氏 名 |
|------|-------|
| 会 長 | 松川 潤 |
| 副会長 | 塚原 重行 |
| 副会長 | 平尾晋太郎 |
| 母親委員 | 星野 暦 |

3 研究主題について

ふるさと平郡の自然・歴史・文化・人々とのかかわりを通して、
子どもたちの生き方に活力を与えるP T A活動

児童が5名の極小規模校の本校において、社会が求めているコミュニケーション力や問題解決力、判断力、表現力等の育成を図るには、地域にある様々な教育資源を学校教育活動に取り入れて実践することが必要不可欠である。

本校が位置する平郡東地区は豊かな自然環境の中にあり、早田八幡宮や浄光寺などの文化財が数多くある。お祭りや地域行事も多く、それに参加される方も少なくない。地域住民の郷土愛の強さを感じる。Uターンをして、生き生きと生活しておられる方やお盆やお正月に帰省される方が多いことからそのことは伺える。また、学校教育活動への関心は高く、協力的な地域住民も多い。

このような地域の豊かな自然、歴史を伝える文化財や行事、郷土愛に満ちた地域住民の存在など、地域の特性を生かし、学校と地域、そしてP T Aが一体となって教育活動を推進していけば、社会が求めている力を子どもたちに身に付けることができ、子どもたちは将来への希望をもって生きていくことができるであろうと考え、研究主題を設定した。



平郡東地区運動会



早田八幡宮秋祭り

4 活動内容

(1) 亥の子

① 目的

平郡東地区でかつて行われていた「亥の子」の歴史・内容・口説きについて地域住民から学ぶことを通して、ふるさとの伝統行事であった「亥の子」を運動会で披露したり、11月の亥の日に復活させたりする気運を高め、実際に行う。

② 活動の様子



「亥の子」の歴史や内容について地域住民から児童や保護者が説明を聞き、その後、運動場で「亥の子」を実際に行った。数日後、運動会で披露する時に使う竹飾りを制作した。平郡東地区の運動会では帰省された多くの方々や地域の方々と一緒に「亥の子」をして、大いに盛り上がった。(5月)



「亥の子」の口説きを地域住民に指導していただいた。12月1日の「亥の日」に平郡東地区の浦地区、羽仁地区、本校グラウンドの3カ所で数十年ぶりに「亥の子」を復活させた。総勢約80名の地域住民が参加し、復活を喜んでおられた。「亥の子」をした後は、それぞれの地区で、地域住民に感謝の気持ちを込めてPTA手作りのぜんざいを振る舞った。(11月・12月)

(2) 親子料理教室

① 目的

平郡の水産資源(魚)を使った料理を作り、それを食することを通して、平郡の自然の恵みの豊かさと平郡の良さを実感する。(第2回)

② 活動の様子

10月是他校の給食メニューを、11月は平郡の特産品を使った調理をした。



前日に釣ったアジを主菜にした料理作りを地域住民の指導の下、行った。指導者の実演の後、きめ細かな指導を受けながら20枚のアジを親子で3枚におろしていった。おろしたアジはフライにした。その他に豚汁も親子で作った。料理ができあがった後は、指導者の作った平郡産のタコを使ったタコ飯、平郡産のみかんを添えて、参加者全員で食べた。子どもたちは平郡の自然の美味しい恵みに感謝・感激し、どれも残さず完食した。

(3) 世界スカウトジャンボリー参加者へのおみやげづくり

① 目的

平郡の水産資源（まき貝）を使ったおみやげづくりを通して、世界スカウトジャンボリーへの参加意欲を高める。

② 活動の様子



保護者を指導者にお迎えし、世界スカウトジャンボリーの参加者へのおみやげとして「貝染めハンカチ」づくりを行った。経験豊富な指導者の指導を受けながら児童は手際よくハンカチを貝の分泌物で染めていった。交流会の最後に、児童は手作りした「貝染めハンカチ」を参加者一人ひとりに手渡した。

(4) 教育講演会

① 目的

マウンテンマウスのお話や歌を聞くことを通して、将来への夢や希望をもって前向きに生きていこうとする気持ちを高める。

② 活動の様子



「バンザイ平郡島」ソングの作詞・作曲者であるマウンテンマウスに来校いただき、教育講演会を開いた。児童、保護者、そして地域住民にも参加をいただき約40名の人たちで会場の体育館が埋まった。笑顔を絶やさず、軽快な口調で参加者に優しく語りかけたり、歌を披露したりして下さってあっという間の1時間だった。参加者全員に元気を与え、児童には「夢に向かって努力すること」「笑顔で元気よくあいさつすること」「自分も他人も大切にすること」など、生きていく上で必要なことも教えてくださった。

(5) 日積小6年生との交流学習（平郡島にて）

① 目的

平郡島での日積小学校6年生との交流を通して、人間関係を深めるとともに、平郡の良さをしっかり知らせる。

② 活動内容



今年度、日積小学校と5回の交流学習を行った。9月は平郡島にお迎えした。3グループに分かれオリエンテーリングをしながら五十谷海岸をめざした。平郡の良さが伝わるクイズを解きながらのオリエンテーリングは、本校児童が中心になって解答を考え、日積小学校の児童に良さをアピールしていた。五十谷海岸では、全員が輪になって昼食の弁当を食べ、その後、保護者が用意したボートでクルージングをしたり、魚釣りや海水浴、海の生き物採集などをしたりして平郡の美しい海での遊びを満喫した。

(6) 「サツマイモの栽培」

① 目的

平郡の特産品である「サツマイモ」の栽培・販売を通して、生産者の努力や苦勞を体感するとともに、収穫や販売の喜びを味わう。

② 活動の様子

畑作り（6月） 植付け（6月） 収穫（10・11月）

柳井まつりで販売（11月23日）

【畑作り（3・4年）】

【苗植え（2年）】



【苗植え（3・4年）】



【収穫（2年）】

【収穫（3・4年）】



【柳井まつりでの販売】



2年生は生活科、3・4年生は総合的な学習でサツマイモの栽培から販売までを行った。地域住民の方に提供していただいた土地を耕し、畑にし、そこにサツマイモの苗をサツマイモ作りの名人に指導をしていただきながら植えていった。2年生はPT

Aと共同で行った。収穫したサツマイモは柳井まつりで販売し、持参したサツマイモは完売した。児童は、「平郡のサツマイモは甘くて美味しい」「焼き芋にしたら甘いよ」などの声かけをしながら積極的に販売していた。

(7) 地域参観日

① 目的

保護者や地域住民が授業を参観したり参加したりすることを通して、児童の表現力の向上や学力の定着を図るとともに、地域住民に学校教育活動を知っていただく。

② 活動の様子

今年度、5回実施の予定である。11月の地域参観日は収穫祭も兼ねて実施した。



11月の地域参観日は2年「生活科」3・4年「国語科」の授業を公開した。約20名の地域住民・保護者が参観された。授業参観後は、本校児童が栽培・収穫したサツマイモや平郡産の小芋、白菜などがたっぷり入った豚汁を保護者と教員、地域の有志で作り、収穫祭として振る舞った。平郡の薪で大鍋を使って作った豚汁の味は格別で、お代わり続出であった。

(8) 朝の読み聞かせ

① 目的

朝の読み聞かせ活動を通して、読書の楽しさやおもしろさを体感させ、読書に親しみをもたせる。

② 活動の様子



毎週火曜日の朝の15分間、保護者による読み聞かせを行っている。選書は読み聞かせをする保護者がしている。夫婦で読み聞かせをすることもある。3学期からは地域の若者女性にも読み聞かせをしていただいている。児童はこの時間をとても楽しみにしており、読書好きな児童が育っていることを実感する。

5 成果と課題

(1) 成果

- 地域にある教育資源を活用した教育活動により、子どもたちはふるさと「平郡」の良さを再発見することができ、郷土への愛着や誇りをもつことができた。また、地域の人とのかかわりを通して、感謝の気持ちや畏敬の念、思いやりの心など豊かな心やコミュニケーション力、表現力が育ってきている。
- P T Aが地域ぐるみの教育活動に積極的に関わることで、地域と学校のつながりがより強くなり、信頼関係が生まれた。そのことが学校と地域が一体となった「チーム平郡東小」を安定させ、子どもたちの健やかな成長につながっている。
- 平郡の地域性を生かした亥の子の復活では地域住民に感謝され、サツマイモ栽培では多くの消費者に購入していただき、子どもたちは自己有用感をもつことができた。これらのことは、自己の向上のために、地域の人たちのために学習をしていこうと、その後の学習意欲につながった。

(2) 課題

- 家庭数が4世帯と少ないため、P T Aとしての活動は限られてくるが、地域ぐるみの学校教育活動を全面的にバックアップしていくことがP T Aに求められている。学校としっかり連携をとり、子どもたちのために何が必要で、何ができるかを模索しながら今後もP T A活動を進めていくことが必要である。